



DANRYU

世界と鹿児島交流情報誌「暖流」 No.47 / March 2020

© K.P.V.B (菊永地区知覧茶生産団地)

外国人総合相談窓口



相談窓口 (イメージ)

10月4日、かごしま県民交流センターにある国際交流プラザ内に「外国人総合相談窓口」を開設しました。県内在住の外国人の方々が、在留資格や雇用、医療、福祉、出産・子育て、子どもの教育などの生活に関する適切な情報や相談場所に迅速に到達できるよう、日本人とベトナム人の相談員が情報提供や相談案内を行っております。

窓口では日本語・英語・ベトナム語、多言語コールセンターを活用して、中国語・タガログ語・韓国語・インドネシア語などの19言語に対応していますので、お困りのことがありましたら気軽にご相談ください。

多文化共生地域づくり事業

[モデル地区における日本語・日本理解講座]



ゴミの分別について話し合う様子

9月末から12月初めまで全6回、始良市において日本人向けの日本語サポーター養成講座と外国人向けの日本語・日本理解講座を併せて開催し、各講座とも15名の方が受講しました。

外国人の受講者からは、「コミュニケーションをとる時に使える日本語を授業で学べて楽しかった。」、日本人の受講者からは、「外国人と話す時は、相手を理解し、どのように接したらよいかを考えることが大切だと学んだ。」などの感想をいただきました。今回実施した事業のノウハウや成果は報告書として県内市町村にも提供し、地域で日本語講座を実施する際の一助になればと願っております。

[災害時における外国人支援研修]



事前研修の様子

災害が発生した時に、外国人を支援するため、語学ボランティアや外国人支援に意欲のある方などを対象に研修を実施しました。

今回は始良市で開催される県総合防災訓練への参加を前提に、まず5月11日に事前研修として、災害時に外国人が直面する課題や外国人を支援する際のファーストステップについて学びました。

5月19日の県総合防災訓練では、避難所運営訓練への参加を予定していましたが、県内で災害が発生したため、訓練は中止となりました。事前研修での成果をいかせませんでした。今回の研修が災害時における外国人支援に繋がるものとなるよう願っております。

[多文化共生社会づくり研修会]



研修会の様子

8月30日、『多文化共生の地域づくりと「やさしい日本語」の活用』と題した研修会を開催しました。

NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会から講師を招き、地域で在住外国人の方と接する機会が多い自治体の職員の方など52名が受講しました。多文化共生の基本的な考え方や多文化共生の地域づくりの先進事例の講話の後、災害用語の「やさしい日本語」での言い換え例や、「やさしい日本語」にするための12の規則などについて、具体的な説明がありました。

各地域において、多文化共生に関する業務をすすめる際の参考にしていただきたいと思います。

地域国際化協会認定30周年記念講演会



講演会の様子

公益財団法人鹿児島県国際交流協会は、平成2年に総務省から地域国際化協会として認定を受け、令和元年度で30周年を迎えました。

この間、鹿児島で生活する外国人の数は増加し、平成30年末には1万人を超えており、多くの外国人が地域と一緒に生活するようになっております。

当協会では、鹿児島で生活する外国人住民を地域の構成員として受け入れ、お互いを理解し、共に助け合う社会づくりについて考えることを目的に、2月16日に地域国際化協会認定30周年を記念した多文化共生講演会を開催しました。

多文化共生社会の実現に向けて全国で活動している徳島大学の教授と、県内在住のハンガリー出身のジャーナリストを講師に迎え、外国人と共生する社会について講演を行いました。

国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化や習慣の違いを認め合い、対等な関係を築く多文化共生社会の形成は、今後ますます必要とされており、県民の皆様と考えていただくよい機会になりました。



講演会の様子

在住外国人のための日本語・日本理解講座



日本語でゲーム

今年度も、鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の生活習慣などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を全60回（水曜昼間クラス30回、木曜夜間クラス30回）実施しました。

講座では、学校行事で使われる言葉や防災で使う単語、また、実際に郵便局で絵葉書を送ったり、電車に乗ったりして、日常語を学びました。また、受講生同士での情報交換や意見交換も行われ、日本と母国の共通点や異なる点に気づく良い機会となりました。

各期の最後の授業では、今までを振り返るとともに、それぞれが出身国の料理を持ち寄り、料理の名前や作り方について説明しました。受講生からは、「自分の考えを日本語で表現する力を身につけたかったので、ディスカッションする時間がとても役にたった。」「これからももっと勉強したい」など、日本語学習への意欲が伝わる意見をいただきました。

おしゃべりひろば

日本語の日常会話が可能で外国人を対象に、お互いのネットワークづくりや日本語の上達を目的とした「日本語サロンおしゃべりひろば」を今年度は全19回行いました。

ハローワークかごしまや鹿児島市役所の方々などにお越しいただき、ハローワークの利用方法や国民健康保険など、日本や鹿児島で生活するうえで役立つ情報をテーマに、話題を提供していただきました。また、薩摩のことわざや日本の贈り物文化、鹿児島のインスタ映えスポットなどについても学びました。参加者からは「制度は難しいけれど、たくさん質問できてよかった。」「日本語をもっと上達させたい。」という声が寄せられました。

おしゃべりひろばをきっかけに交流の輪が広がり、日本語を学ぶ意欲に繋がっていくことを期待します。



ダンスをする様子

～鹿児島で世界を語ろう～第25回外国人による日本語スピーチコンテスト

32名（10カ国・地域）の県内在住の外国人の方が予選に出場し、その中から10名（5カ国）が、令和2年1月25日に行われた本選で発表しました。『おばさん』というタイトルでスピーチをした中国出身で鹿児島大学の王珊珊さんが最優秀賞を受賞しました。日本で出会った対称的な2人の「おばさん」を通して、外国人への差別や人への接し方を考えたという王さんの発表は、温かい心で人を受け入れることの大切さを改めて教えてくれました。身振り手振りとともにユーモア溢れるスピーチを披露し、350名の聴衆を惹きつけていました。

学んできた日本語で自身の経験や思いを堂々と語る出場者の皆さんの姿は、これまで日本で頑張ってきた様子を如実に物語っているようで、聴衆の皆さんも心を掴まれていたようでした。今後も一人でも多くの県民の皆さんに、国籍や文化の違いを越えた国際交流の場を提供していきたいと思えます。



本選出場者（前列）と審査員（後列）

文化紹介講座（ネパール・韓国全羅北道）

県内在住の外国人の方が自国文化を紹介し、県民の方々に多文化共生の地域づくりについて理解を深めてもらうことを目的に、「ネパール文化紹介講座」を10月13日に開催しました。ネパールの民族や文化、伝統やおすすめの場所などについて説明があり、参加者からは、「普段触れる機会の少ない国だが、わかりやすく、楽しく学ぶことができた。」と、好評をいただきました。

簡単なネパール語を使って参加者がお互いに挨拶を交わしたり、講師の話に対して参加者から驚きの声があがったりと、ネパールをより身近に感じ、理解を深めていただけたようです。

また、今年度、鹿児島県と韓国・全羅北道は、交流を始めて30周年を迎えました。当協会は、県民の方々に歴史や文化、自然など多くの魅力を持つ全羅北道をもっと知ってもらうため、全羅北道文化紹介講座を2月2日に開催しました。

全羅北道の大学を卒業し、県内企業で活躍されている方に講師になってもらい、全羅北道の食文化を中心に話していただきました。また、10月下旬に全羅北道文化探訪団に参加された霧島食育研究会の方にも探訪団の報告をしていただきました。参加者からは、「講師の日本語がとてもきれい。」「おいしそうな食べ物が多くて、行ってみたいくなった。」などの感想をいただきました。



ネパールの民族衣装紹介



全羅北道紹介の様子

全羅北道文化探訪団



外食業中央会のメンバーと一緒に

今回は「食文化」を通じた交流を促進するため、鹿児島で食農体験や郷土料理の伝承、食育セミナーなどの活動をしている霧島食育研究会の会員6名の方に参加していただき、10月29日から11月2日の間、全羅北道を訪問しました。

訪問中は、韓国外食業中央会全羅北道完山区の飲食店経営者の方々と全州地方の郷土料理のひとつであるビビンバや発酵食品で韓国料理にもよく使われるコチュジャンを一緒に作りました。また、全州大学の日本語科の学生約80名の方と鹿児島の郷土料理であるがねやさつま汁などを一緒に調理しました。今回の訪問を通じてお互いの国の料理について興味深く勉強でき、和気あいあいと協力しながら心が通いあう充実した交流ができました。日程調整により参加者が少なくなりましたが、「民間の方々とはとてもあたたかく、昔の文化を大切にしている。貴重な体験をありがとうございました。」「学生さんたちが熱心に取り組んでくださったので嬉しい気持ちでいっぱいになりました。」などの感想をいただきました。

香港城市大学専上学院日本語研修



おぎおんさあ神輿担ぎ体験

7月9日から20日間に渡り、香港城市大学専上学院の学生10名が、日本語学習をはじめ、様々な日本文化体験をする日本語研修に参加しました。

浴衣の着付け方を習い、浴衣を着て、照国神社の六月灯に参加したり、茶道体験では初めて自分達でお茶をたてたりしました。

また、大雨の中で必死に担いだ「おぎおんさあ」での神輿担ぎ体験も、学生たちにとって忘れられない思い出となりました。ホームステイは「本

当の家族のように迎えてくれて嬉しかった。」という声があがるほどで、楽しみながら日本の生活を満喫できました。

日本語講座の先生方、文化講座の先生方をはじめ、本事業に関わってくださった多くの方々のおかげで、学生の鹿児島での生活は実り多きものになりました。この彼らの貴重な経験が、これからの鹿児島と香港の友好関係の支えとなることを期待しております。

鹿児島県青少年国際協力体験事業



夕トラが村にて

この事業は、開発途上国で活躍する青年海外協力隊員の活動現場に鹿児島の青少年を派遣し、国際協力に対する理解を深めるとともに、ホームステイなどでの異文化体験や交流を通して、国際性豊かな青少年を育成することを目的に、平成3年度から実施しており、今年度で28回目を迎えました。これまで延べ361名の中高生をアジア7カ国に派遣し、今回は7月21日から28日までの8日間、県内各地から選抜された15名の中高生を本事業で3回目となるカンボジア王国に派遣しました。

農村部でのホームステイでは、日本とは異なる生活環境や文化・言葉の違いに戸惑いながらも、現地の方々とのコミュニケーションを楽しみ、人々の温かさ、心の豊かさに触れることができました。

また、小学校の巡回指導や中学校の体育指導を行っている2人の青年海外協力隊員の活動視察では、異文化を受け入れ、その国に合った支援の在り方の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。今回は、現地小学校での運動会にも参加し、子供たちや先生と一緒に競技を楽しみました。生徒たちは現地の人々との交流や協力隊員との意見交換を通じて、海外をそして日本をもう一度考える機会になったようです。

協力隊OBと留学生が先生事業

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊OB会と当協会の3団体で実施しているこの事業は、希望のあった県内の小・中学校に青年海外協力隊として活動していた帰国隊員や留学生などの在住外国人を講師として派遣しています。

授業は、協力隊OBは赴任国での活動体験や文化、習慣などについて、外国人は母国と日本との違いなどについて話し、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。普段見ることのない民族楽器や民族衣装なども用いるため、実際に見て、触れることで、より外国に関心をもっていただいております。

今年度実施した36校の約2,600人の生徒からは、「協力隊OBの方のように私も夢に向かって頑張る。」「自分たちがいかに恵まれた環境で勉強できているかを知ることができた。」などの感想をいただきました。



インドネシアの楽器（アングルン）を紹介

英語絵本のよみかたり

この講座は3才から小学生までの子どもを対象に国際交流員が英語の読み聞かせを行い、幼少期から英語に触れる機会を提供し、英語への関心を高めることを目的としています。今年度は薩摩川内市、始良市、南九州市、奄美市、いちき串木野市での出張講座を含め7回行いました。

講師のウェルチュ国際交流員（イギリス出身）による絵本の読み聞かせや、ゲーム・工作などは、様々な年代の子どもたちが楽しめるよう工夫を凝らしたものでした。中でも、木製のスプーンで作る「スプーンフレンド」というイギリスの人形作りの工作は子どもたちに大人気で、夢中で取り組む様子が印象的でした。今後も、英語に親しみながら夢を育むことが出来る講座の実施を目指します。



講座の様子

地域国際交流促進事業

県民の方々に国際交流への関心を高めてもらうため、地域在住の外国人の方々や国際交流団体と連携し、県内各地のイベントに国際交流ブースを出展しています。今年度は鹿児島市の「MBC夏祭り（7月24日、25日）」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル（12月8日）」にブースを出展しました。ブース内では、外国語で挨拶した後に地図でその国がどこにあるかを探す「世界の挨拶スタンプラリー」や、お気に入りの外国の切手で作る「しおり作り」などを行い、来訪者には国際交流員や留学生との会話を楽しみながら、取り組んでいただきました。このように外国語に触れる機会を通して、国際交流を身近に感じていただければと思います。



MBC夏祭り

国際交流員の活動報告

今年度、王国際交流員（中国出身）、金国際交流員（韓国出身）、ジアハン国際交流員（シンガポール出身）、ウェルチュ国際交流員（イギリス出身）の4名が新たに赴任しました。

国際交流員と県民の方々が英語・中国語・韓国語のそれぞれの言葉で会話をするランチタイムトークや、出身国について紹介する文化講座など、国際交流・国際理解推進のために様々な活動を行いました。

南九州市で「韓国料理・文化紹介講座」、また、奄美市やいちき串木野市で「イギリスの歴史や文化」について講座を行いました。今後も、県民の皆様の要望に対応できる国際理解の推進の機会提供に努めたいと思います。



文化講座の様子

JICA情報

『いつか世界を変える力になる。～ JICA 海外協力隊 971人
鹿児島県から飛び立った仲間たち～ (2019年11月19日時点)』



JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき、青年海外協力隊等として派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としています。これまで世界91ヶ国に5万人以上の隊員を幅広い分野に派遣してきました。帰国後は、日本や世界で協力隊体験を生かした活躍が期待されています。

一般案件 / シニア案件

- 【対象年齢】20～69歳の方
- 【派遣国】アジア・アフリカ・中南米・大洋州・中東・欧州の国々
- 【職種】農水、行政、教育、医療からスポーツまで120種類以上
- 【募集時期】春・秋募集の年2回
- 【派遣期間】原則2年間



青年海外協力隊

PARTNER

PARTNER は国際キャリア総合情報サイト。こんな方におすすめです。

【個人の方】

- 「国際協力、国際キャリアについて知りたい」
- 「世界の舞台で活躍するアクターとつながりたい」「グローバルに働きたい」

【企業・団体の方】

- 「求人情報・研修セミナー情報の掲載」「団体からのお知らせで活動を広報」「人材情報の閲覧」「オファーメールの送付」

鹿児島県国際交流協会にはJICA事業の窓口として「JICAデスク鹿児島」があります。

JICAボランティアや国際協力に関心のある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

【JICAデスク鹿児島】担当：外西（ほかにし）TEL：099-221-6624 E-mail：jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 中国語ランチタイムトーク（毎週火曜12:00～13:00）
- ・ 韓国語ランチタイムトーク（毎週水曜12:30～13:30）
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ（毎週金曜12:00～13:00）



○国際交流に関する問い合わせやホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

○外国人総合相談窓口

英語、ベトナム語、中国語などの多言語での相談に対応しています。

《開館時間》9:00～17:00（火曜日～日曜日）

《休館日》月曜日（但し祝日の場合はその翌日）/年末年始（12月29日～1月3日）



【国際交流プラザ、本誌に関する問い合わせ先、相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かがしま県民交流センター1階

TEL：099-221-6620 FAX：099-221-6643 E-mail：kia@kiaweb.or.jp

HP：https://www.kiaweb.or.jp Facebook: https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/